

第1回  
(2019.4.9)

## 『大学図書館の魅力と研究活動』

松井啓之教授(経営管理大学院・図書館副機構長)

### 第1回：講義

- ・ 場 所：学術情報メディアセンター南館 303
- ・ 出席者：受講者 36 名 演習補助者 3 名
- ・ 配布物：松井教授講義資料(A4 両面 9 枚)、授業日程・講義構成(A4 片面 1 枚)、事前アンケート(A4 両面 1 枚)、第1回授業アンケート(A4 片面 1 枚)

### 授業の目的(附属図書館 北村准教授より)

- ・ この授業の目的は、図書館利用を中心とした文献・学術情報検索についてのスキルを獲得し、それを活用してプレゼンテーションやレポートで発表できるようになることである。

\*\*\* 松井教授講義\*\*\*

### 講義の目的と内容

目 的：高校時代の図書館や公共図書館とは異なる、大学図書館の魅力と研究活動を理解する。

内 容：大学図書館が持つ意義と価値を考える。また図書館資料の概略や特性を理解する。

### 図書館とはどのような場か

- ・ 「図書館」は明治時代に Library を訳した造語。博物館や公文書館と違い、図書館はすでにラベル付けされたものを収集する。
- ・ 読書の場、貴重な資料と出会う場、静かに思索する場、コミュニケーションの場、最先端の研究成果に出会える場、研究のスキルを知る場など多様な機能を持ちうる。

### 図書館の成り立ち

- ・ 図書館の起源は、文化を移設して発展させていくということにある。古代アレクサンドリアの図書館はギリシャの知識を学ぶ場として設立された。
- ・ 図書館は、ヨーロッパでは教会の神学資料室として、日本では個人の文庫、藩史編纂所、寺子屋として発展してきた。資料を集めて解釈し、知識を共有する場として始まった。当初は、一部の利用に限られていたが、印刷技術の登場により、公共サービスとしての性格を持つようになった。

### 様々な形の図書館

- ・ 図書館には様々な形態がある。国立図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館など、サービス対象によって分類することができる。
- ・ 貸本屋はよく利用される図書をおくことが基本となるが、図書館はその図書館に必要なと考えられる図書を司書が選書して所蔵するという違いがある。
- ・ 20 世紀のアメリカでは、大学の役割について、良き市民を育てる場から良き研究者を育てる場へと考えに変化が生じた。
- ・ 世界で最初に大学院を設置したジョン・ホプキンス大学において、「図書館は大学の心臓である」という言葉で表されるように、図書館は大学の研究活動の根幹であるという風に捉えられるようになった。
- ・ 松井教授が実際に訪問したイギリス、アメリカ、オランダの大学図書館や公共図書館が写真付きで紹介された。

### 図書館の役割の変化

- ・ 書物における第一の革命として、印刷技術の登場により、書物が爆発的に流通するようになったことがある。書物の普及は、宗教改革にもつながった。

- ・ 現在は、インターネットの普及により電子的情報が爆発的に増える第二の革命の時代であり、図書館の役割も大きく変化しつつある。
- ・ 図書館には電子的情報の迅速な収集と発信という役割が求められる。

#### **京都大学図書館はどのような場所か**

- ・ 京都大学図書館機構は、全部で約 50 の図書館・室、所蔵総数は 700 万冊、約 17,000 種類の雑誌、約 38,000 タイトルの電子ジャーナル、約 18 万件のリポジトリなど、世界でも有数の規模を誇る大学図書館である。
- ・ 学習室 24、共同研究室、ラーニングコモンズ、サイレントエリアのように、自学自習、読書、議論と多様な活動ができる空間が用意されている。
- ・ 学習サポートデスクのように、論文・レポートの書き方が学べる場所がある。
- ・ 学内に資料がなければ、国内、海外からも取り寄せることができる。

#### **研究活動とは**

- ・ 研究活動とは、①研究計画をたて、②計画に基づく研究を進め、③研究成果を発表する。
- ・ この授業では、研究活動を体験する。不正を行わないためには、先行研究を参照し、そこに自分の新たな知見を加えることが必要である。
- ・ 研究活動で重要になるのが、論文である。世界で最初の論文は 17 世紀にイギリスで出版された。
- ・ 論文が出版されるようになり、研究の先取権が管理・保証されるようになった。

#### **学術資料と大学図書館の今後**

- ・ 近年、電子化された論文の価格高騰が問題になっている。
- ・ この問題への対処法として、論文のオープンアクセス化という取り組みがある。
- ・ オープンアクセスとは、インターネットを通じて論文を誰もが無料で閲覧可能な状態におくことを指す。大学図書館は研究成果のオープンアクセス化において、重要な役割を担う。
- ・ 京都大学は 2015 年 4 月に日本で初めてオープンアクセス方針を制定し、研究成果のオープンアクセス化に努めている。
- ・ オープンアクセスからさらに進んで、論文だけでなく「知の集積」のオープン化(オープンサイエンス)が今の学術情報流通のトレンドになっている。
- ・ これまでは、「知の集積」が大学図書館の役割であった。これからは、「知の創造の場」となっていくことが求められる。
- ・ 図書館の役割はアーカイブ+α：研究学びの場、研究・学びを学ぶ場、研究・学びを实践する場

#### **\*\*\* その他 連絡事項 \*\*\***

- ・ 事前アンケート、第 1 回アンケートの記入のお願い。

(記録：小松原 記子)